



神奈川県

114
A3024
2

對校濟

辰四月ヨリ

横須賀
製鉄所御用留之内書板

地方
地



414
A3024



正キセラニス

成崎大隅守候よりヒケー氏に宛てて

書翰之雛形

但會計局之印章之添

才ア之書翰

予カ乞一如ク其評之倉中又ニ信庫ニ納ル所

幸以府就各什物俾之日籍書之ニ係ニ添テ

才之宛手之各什物員法合之成りけしを若

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈

神奈川氏部首

大隈

世帯什の愛買何らハ我政府之損うる台事哉
委細ヲ兼テ有為回答云々

慶應四年二月廿五日 性君 下

才二書翰

日本政府とセ子元會社之際と包中ノ會計書
去年十二月三日所一者と予に送しき所
業とテ右之類も

三百三十八千六百五拾フラン七サシム

其外

此振九百三拾フラン七サシム

右司ロヤ止之世中ハ様なき一火器之價高

合而三百三拾九千七百五十九フラン七サシム

此則政府之借分

右高之可感也我政府格候におおと其許ハ救回
入金と一高洋振取格六百千也ハ會社我會斗
にて差引也

於横濱千八百五十八年四月廿一日

外五封

川崎近江守

合身封

成海大隅守

西原守

借取高五拾万ト云ル落合彦左トテ其引高小
日本政府トシ余等ニ差出スルノ様紙契書様
漢製紙亦ト余等トシテヤ子云ル兼佛國郵私

以事民務啓止の事々々般様御製製語示之海を神
 奈川裁判所之儀々々海之儀々々又西之儀々々
 樹中ノ月全職業止め之儀々々又西之儀々々
 海傍之儀々々先是之儀々々又西之儀々々
 儀々々出張考之儀々々又西之儀々々又西之儀々々
 之儀々々又西之儀々々又西之儀々々又西之儀々々
 之儀々々又西之儀々々又西之儀々々又西之儀々々
 如斯、此等、之儀

写本二十号

以下は抄本に於ては横濱製糖所附函友
 之義最前舊政府より送附し約書面を病舎
 横濱医師の療治を又厚きなるとし又海
 軍之病院にありし様子を以て明文を以て
 して横濱の療養を切に志すに其後世田町
 美玉の渡船より御前法利之に由り横濱製糖
 所に於ての廿八号を以て誠意を以て海軍に
 在りて舊政府

引合解之来非在在の... 是迄に也
之を並に給ふ... 我政府一新に事改
革之れ概許多之の費を掛る之向に用運之の夫
程に打捨並元々之費用之廢停に之の位
前古製鉄之の海に之の財要用とてふる廢
お蔵に就て之を並に出す之免を最取之切也
之之の如く格序の如く之病者療養之に加は
相及サリキ一後今收功を為すなる閣下も其國

政府の事至之と早に之の並有之給と一に
有るを得也意の也

長二月廿七日

東久世外相

佛王全權公使

ワートレー閣下

才二 洋銀千八百四拾八弗

右を取らるる一病院小日三雇せし人の賃銀
一日三ドル之割に日取六百十六圓

同六百弗

右を取らるる一病院小日三雇せし人の賃銀
一日三ドル之割に日取六百十六圓

同六百弗

是を平均一日三弗の割に日取六百圓病院
止りりる其も弗

同千八百五拾弗

右を取らるる一病院小日三雇せし人の賃銀
一日三ドル之割に日取六百十六圓

同千弗

是を平均一日三弗の割に日取六百圓病院
止りりる其も弗

洋紙三百冊

積厚の茶店より拂茶施氏凡の足様

一 積厚実小立る画師より日中人の公附の事を撰者
世勅定小と書加くふ中

一 扇々日中破人中小ふ意のりる之常に佛
画障養施施所

一 役人破人花村のとの共毎朝画師の修案を
法るとくは拙者中一々条小掲けし合ふる

内にて然しは其者号外に書及法記中
更に積厚実の画師引拂ひにわ成るに別紙小
小立る日中人のた先にたふ并ふとあり

政府との名に姫来及勅定之に其事記しるに止
之に極佛を令推し書竊んは如き事あり

キハ月十日

ウエ几二一花押

才二月十八日附之正書報律凡正別氏正雇共五人姓名
 目錄律一十年定期之者二十年定期之者其宗正律
 坊乃亦中裁之裁系乃地正雇共五人凡凡之正日之内
 正西帳之正之正之正之正之正之正之正之正之正之正之
 之正之正之正之正之正之正之正之正之正之正之正之正之
 之目錄正之十九人書裁之正之其宗正二十六人正之正之
 正之正之正之正之正之正之正之正之正之正之正之正之
 定期正之律坊乃亦中裁之裁系乃地正雇共五人凡凡之正日之内

裁之之度

一 各地製法に買之為兼善産之義是を以て
中三の作りに在るを以て不致合を以て之を以て
字子差のり中裁之之の如し一也
及之江に裁之り也

二月十日

寺島陶流

ウエニニ一系

二月十日換地実割法示す
別代職人高二月十日迄
其内正者二年常の職人一年延期之積
且延期に於て臨時料場具に於て
之臨時料場具に於て臨時料場具に於て
場具に於て臨時料場具に於て
之節帆並に臨時料場具に於て
して送る臨時料場具に於て

一月拾八日 若槻殿 廿八日 約定あり

一月二十日 湊物師 三十一日 約定は日十百辛辛年四月廿日

一月二十日 日引 レブコ 約定は日十百辛辛年四月廿日

一月二十日 日引 日引 日引 約定あり

一月二十日 日引 日引 日引 約定は日十百辛辛年四月廿日

一月二十日 日引 日引 日引 約定あり

一月二十日 日引 日引 日引 約定は日十百辛辛年四月廿日

一月二十日 日引 日引 日引 約定あり

右様の人々月あつた者も其の新陳約の様頂
 契は此等請ふまじきいとを既決定あり別は其人
 ブークルウエウトサバキ子子ら者も様物製造形所
 おわと修送せし此中の若槻殿に用中の様も其他
 九人者も様物に出航の様も
 様物製造所の様物も是も様物人の自教あり
 向度唯六の月兼用は月一又の名も方々様
 様物製造所の様物も増加し様物ありり要

同の人員負たせり

一月拾三日拜 首長三人

一月百五拾拜 足藏官五人

一月拾日拜 日候人五人

一月百拾拜 漆物候人

一月百拾拜 御治候人

右等之御用日中全權政府の御用を為行要
を為首長を以て年並に候人を以て一年一席を

此の約新條約を乞予改正し之を出し其是等の
條約を極む事とす所又日中領事友の條約を
校らりし一とらるるても此の約に難し依る其約定
證紙を以てしるしとの甚しき用を以て其條約
を以て予の所を以て極む事とす所又日中領事友の
條約を極む事とす所の内日中領事友の條約を
至出候し併予の所を以て又日中全權政府の
條約を以てしるしとす所又日中領事友の條約を

横濱製鉄所首長 千本一

明治三十二年正月八日

大隈氏初大浦下

伊多氏初少浦下

引越前分横濱製鉄所出張出立之書并写

横濱製鉄

製鉄所庶務係人

到着月日

一ヶ年 陸科

没名 人名

宣五月五日

壹万九千

首長

ウエルニ

宣六月十七日

八百三十九千三百二十

医師

サワテイキ

妻 張人
石住佛女主人

定十月九日 四千八百元

建築方从 フロラン

十月十五日 四百元

建築方从 ノルニエー

定六月二日 二千八百元

妻

七月十三日 二百七十九元

建築方从 ノライニング

定五月五日 二千七百元

妻

六月十七日 二百七十九元

書記及 モニゴロ井エー

定五月五日 千五百元

名吏及 デスバーニ

六月十七日 百三十九元

建築方从 ボユル

定五月五日 千二百元

建築方从

定五月五日 百二十九元

建築方从

定五月五日 百二十九元

建築方从

定五月五日 百二十九元

建築方从

定五月五日 百二十九元

建築方从

定五月五日 百二十九元

建築方从

定五月五日 百二十九元

建築方从

定五月五日 百二十九元

建築方从

定五月五日 百二十九元

建築方从

定五月五日 百二十九元

建築方从

定五月五日 百二十九元

建築方从

千八百六十七年十月三十一日

十月三十一日 九百六十九元

十月九日 八十九元

千八百六十七年十月三十一日

十月三十一日 九百六十九元

十月九日 八十九元

十月三十一日 千八百六十九元

十月九日 九十九元

千八百六十七年十月三十一日

十月三十一日 千八百六十九元

十月九日 九十九元

十月三十一日 九百六十九元

十月九日 八十九元

十月三十一日 八百六十九元

十月九日 七十九元

鐵板 フロウク

紙張 金ドララコ

帆提小紙 ピラール

三喜 三喜 三喜

紙張 三喜

紙 ハリエー

紙張 コルデン子

千八百六十七年十月三十一日

十月三十一日 千二十九元

十月九日 八十五元

千八百六十七年十月三十一日

十月三十一日 九百六十九元

十月九日 八十九元

千八百六十七年十月三十一日

十月三十一日 千三百二十九元

十月九日 百十九元

千八百六十七年十月三十一日

十月三十一日 千二百二十九元

十月九日 百五十九元

十月三十一日 七百二十九元

十月九日 六十九元

十月三十一日 六百二十九元

十月九日 五十九元

紙張 ヲウヂ

紙張 ミヨール

紙張 マンチ

紙張 コンスタ

水落所 ポン

紙張 アンジ

出張大藏

西曆十一年
三月七日

三月七日
七百三十九
六十九

同前月九日
八百一十九

使役
ドレール

同前月二日
千二十九
八十五元

丸屋殿
アレンケチール
妻
子供三人

延斗式格九人

浮科

一ヶ月
洋張五百七十九

一ヶ月
月四千二百三十九元九十九セシト

神奈川県
民部省

一 全紙拾壹万八千九百七拾二枚永代紙拾五万五千
洋紙拾壹万八千四百九拾二枚九拾四セト

内訳

全紙拾万八千四百七拾二枚永代紙三拾七枚

是を製紙所より運出向其の所決て用去紙

三月廿八日迄十月迄合拾九ヶ月分

洋紙拾壹万八千四百九拾二枚九拾四セト

是を佛人強科其の佛家公認之由代去紙

四月廿八日迄十月迄合拾九ヶ月分

残紙万四千九百拾二枚八拾二枚

は全紙万四千九百拾二枚永代紙八拾二枚

江全紙五万五千
洋紙拾壹万八千四百九拾二枚

是を決断人足置其の所決て用去紙

外

洋紙拾壹万九千五百拾二枚八拾二枚

是を決断人足置其の所決て用去紙

方之五之佛而小諸善樹亦以買上代之は辨
去三月中引分以未其解し而口は前年

余
合以格壹万、千九百七拾六、五、永、或、百、或、拾、五、又、五、下
洋振以格貳万九千四百四拾四、五、拾、或、七、下

町
洋振壹万二千九百九拾壹、五、拾、九、七、下、を、格、換

割換所は、雇、佛、人、控、科、西洋、手、百、二、年

五月、八、日、中、九、年、二、月、三、日、合、格、六、月、分、南、力

二、法、名、水、屋、り、り、

付、三、月、平均、四、月

合、三、万、八、千、或、百、拾、六、五、永、拾、五、又、五、下

洋振壹万八千或百七拾六、五、拾、七、下

外

合、九、拾、八、百、八、千、或、拾、五、五、永、百、三、拾、五、又、五、下

旧幕之筋、決、分、元、也

根、目、表、割、換、所、の、決、定、後、格、換、科
并、以、格、換、上、買、渡、り、用、書

合五子百四拾貳拾分永貳百文五下
洋銀四百四拾肆八セト

分

洋銀壹万九百五拾肆拾五十八セト

是より雇洋人方之諸社修後科并修品

壹度代より五洋五拾貳拾六拾五拾

合洋銀五万子百拾肆拾肆拾六セト

是より面之三月分同十月迄納高

右之趣

乙未月

出張大藏

一月四百井 フロラニ

一月四百五拾井 エウトラシ

一月三百井 ノルシー

一月貳百五拾井 ノライニグ

一月百五拾井 モルクルハ

一月貳百井 テスパニー

一月百六拾五井 トルテール

一月百七拾井 ガルマシ

一月百七拾井 ジユモシ

一月百六拾五井 レステウキ

一月百三拾五井 モニズ

一月百貳拾井 コスタレテレ

一月百三拾井 リウレヨニー

一月百貳拾井 ビラン

一月百拾井 ウラード

一月九拾五井 ミヤハペー

神奈川県民部省

一月八拾五冊

スーデー

一月九拾五冊

ユルト子

一月九拾五冊

コルタン

一月七拾五冊

ポ

一月六拾五冊

リュミヤニ

一月四拾五冊

バサン

合

人者三拾三人

洋張五子六百四拾冊一拾六セント

格漢製鉄小西庄佛入ととて月

格科洞書

一月張三白冊

ルワサン

一月百五拾冊

ホユル

一月百六拾五冊

ハレール

一月百五拾冊

ウエツト

一月百冊

エセール

一月百帛

サラン

一月九拾五帛

メークル

一月百帛

クレース

一月百帛

ロエラト

一月百帛

ロブラン

一月九拾帛

クリーホ

合

人取拾五人

洋張子四百六拾帛

合

合

人取四拾五人

洋張子四百六拾帛

五月
内不用

去辰巳四月廿五日迄

横濱製鉄所水取用其約高共潤書

横濱製鉄所去辰巳四月廿五日迄

此乃潤書

今于五百七拾四五五ノ水白又五下

是と製鉄所内以無汚而其外以修後去辰巳

より由巳十月迄於合括九月迄

洋帳を万四千七百四十八拾八セント

此を以て雁佛人給科而己三月十日十月三十一日

但去帳目四月分而己二月分を以て換得矣

表抄の如く取扱去帳中

今を万三千五百拾五文永取六拾七文下

洋帳千九百七拾九并五拾八セントを以て

此を概概製造用其の残取買之物代去帳目四月分

而己十月三十一日

今を万五千八百六拾六文永取四拾五文下

此を諸般人持出給科并貸帳去帳目四月分

而己十月三十一日

今を百六拾五文永取百五拾五文下

此を換得票表に決概概其の屋送に取付帳

去帳目四月分而己十月三十一日

今を四拾七文永取七拾五文

此を廻使及手而己去帳目四月分而己十月三十一日

今令之方の振込を永の振込に
洋振を乃に子に振出にト

世々月平均

今子五百振を永に振込

世々月平均

洋振百四并振九セト

可也

洋振子七百の振出にト

佛之振科に月
二月平均

乃に測り有之

乙未月

横濱銀行に於ては、佛之振科、其の初也

洋振五千四百七振に并に振四セト

今七振に及ぶ、永に振出にト

是より去る五月分、乙未月迄、決必兼、諸振、佛之振科

決必兼、各五人、分、乃に測り

乃に測り有之

乙未月

大隈氏初大浦及

伊豆氏初大浦及

航海家之名考書

海防に於て岬、燈臺、建屋、中、同、水、本、製、刷、巨、馬、樓、
を、没、節、後、標、燈、を、揚、く、樓、之、在、不、厄、の、如、し

北緯 二十四度五十二分二十秒

緯度東經 百三十九度五十分二十秒

樓高 大瀬上 七十尺

右器械を尹四等、属、其、種、類、を、固、着、し、て、光、線、を、
屈折、せ、し、め、の、み、て、其、光、射、を、航、海、里、九、里、小、
マイル

幸し八百格きび之用を成すは北七十三度東より
北七十六度西に至る

列島の暗礁を方鍼南八十五度西四里之距離に列す
世方向、あて列、近照之燈塔を掲ぐ其光線は十

六里に達し二十度之角を成す

明治二年之九月即ち百二十九年十月十日

江戸灣口之親音岬小標燈を掲ぐ

右各標燈を中二等小属し其種類を固着しして光線は

屈折近照よりその中して其光線を航海里高里

小五を三二度零二分之用を成すは方鍼之南三十三

度西より北七十五度西の至る小標燈之位並にその

北緯 三十五分十四秒半九秒

緯度東経 百二十九分二十九秒

燈高六潮上二百六十六尺

右燈塔を碇石製之方樓之上面小點に

フリモウの炭燈を方針南十六度西と仰り二百七分

之距離少何

右日本政府之令より名若す

千九百二十九年

十二月二十日

造紙場司長

丑凡、ウエ凡二

製鉄所の雇佛人首長ウエ二一 依四格五人雇期限四
 年之移り有之予八百二十九年十月_{己九月}迄
 雇期限終りて又右に刃部を_をお_れる者又_は經年期
 間_にお_りて有之且_は雇業之好悪_によ_りて_は役人撰
 之上_に依_りて人海國_を為_りて列_れて_は通_りて首長_は依_りて格_は四人
 相_違ひ_て各_々も_は不足_す而_も八人_を新_規佛_人と_して呼_ぶ
 然_る合_計二_十人_とお_して而_も移_りて格_は依_りて_は是_れ迄_に四_格
 五人_として一_十年_は八百_三十七_百六_格佛_人之_を又_は新_規之_者

お米の代を三拾八人の二一二年六月七子石井にお成
を乃六子四百石井お成の後を石井の拾八人着せ
六月毎に廟之へ免増給料と之の約定より此後
及此等

神奈川村

列事

二月十七日

外玉友

列事

石井

正月二十五日書翰致せ凡口宛を差下執事歸玉
之義名許りし事と其間公使おのりしをまかり
与兼凡在園中六月往還共二十月五在之在事
誠致事知の事文証を以并出お成十月五在之在事
いし

差下而在中もいせニヨル千石に一氏様恒堅に任
居る下之代にして其力可く之を各務承知
同人等科之義を四月十日附之に成之書面中

戸二并左下年六十五百并々々之古々十ボロ氏
之りりりりる六十五百并々月割 之れ後之れ之れ
如之首長全権如如如如如如如如如如如如如如如如

若下滞め申北規雇入八人着人撰方其その
各種之會斗高出之役申用旋之るるはしと
月強申減以度申々申減申申知申出立申以渡
申り申以展申申減のるる之れ

築造方圓引デスパアギ工氏後務決以の政各并

在東島川中より秩飽洲迄迄之れ渡申之れ小苑
化之れ申以口合ル申力デスパアギ工氏申用之
極而力丹練るる各件之れ務申知之れ其申東京
表之れ申以悔之れ又着申申申申申申申申申申
兼之れ申以テスパアギ工氏渡渡之れ為申申申申申
務申申申之れ力負申申申申申申申申申申申申
之れ申以支申之れ分申申申申申申申申申申申
若下出立申種之れ法判之れ一之れ其申之れ申

イニセニヨール千ホエー氏少同律裁列心出出之存
付既乃教音中庭方少少坐。心

三月十八日

并 尚 陶 苑

ウエルニ一

三下

格 恒 契 格 演 割 製 珠 不 洪 乃 用 弓

一 令 九 格 乃 八 子 武 格 三 五 三 永 百 三 格 七 文 五 一

是 也 製 珠 不 初 發 不 去 格 四 月 三 日 幕 府 共 乃 月

一 令 三 格 乃 七 子 武 百 三 格 武 五 武 三 永 五 格 五 八 一

一 讓 武 格 乃 五 百 格 貫 七 百 四 格 五 八

一 洋 派 三 格 乃 六 子 三 百 格 九 格 三 格 七 七 七 一

是 也 去 凡 取 臣 四 月 八 日 慶 年 四 月 三 日 月

出
張
大
藏
本